

煉瓦窯冬フェスタ あす野木で

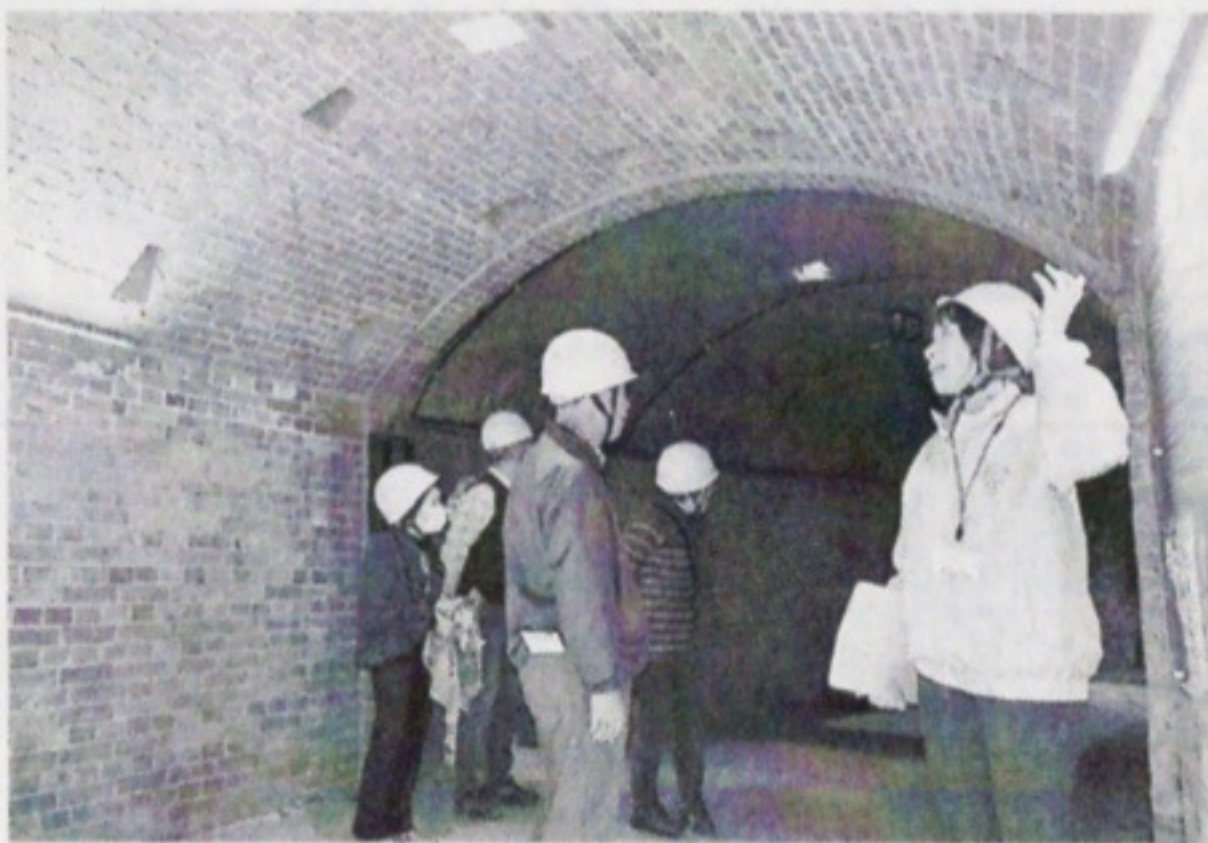
恋人の聖地に温かな光

見ごろ
食べごろ
遊びごろ

9月に3年余の修復作業を終え、16年5月に近くに交流センター「野木ホフマン館」が開館した。

煉瓦窯はかつて「下野煉化製造会社」が所有し、1890年から1971年まで操業した。れんがは近くの渡良瀬遊水地の粘土と、思川の砂を原料とし、月約40万個が生産された。東京駅や日光金谷ホテルにも使われたとされる。現在、煉瓦窯は町が管理し、国重要文化財に指定されている。

煉瓦窯は、ボランティアガイドらの案内で内部を見学できる。ヘルメットをかぶり、狭くて低い入り口をくぐると、見事なドーム形の天井が目を引く。れんがが巧みに積み上げられ、織

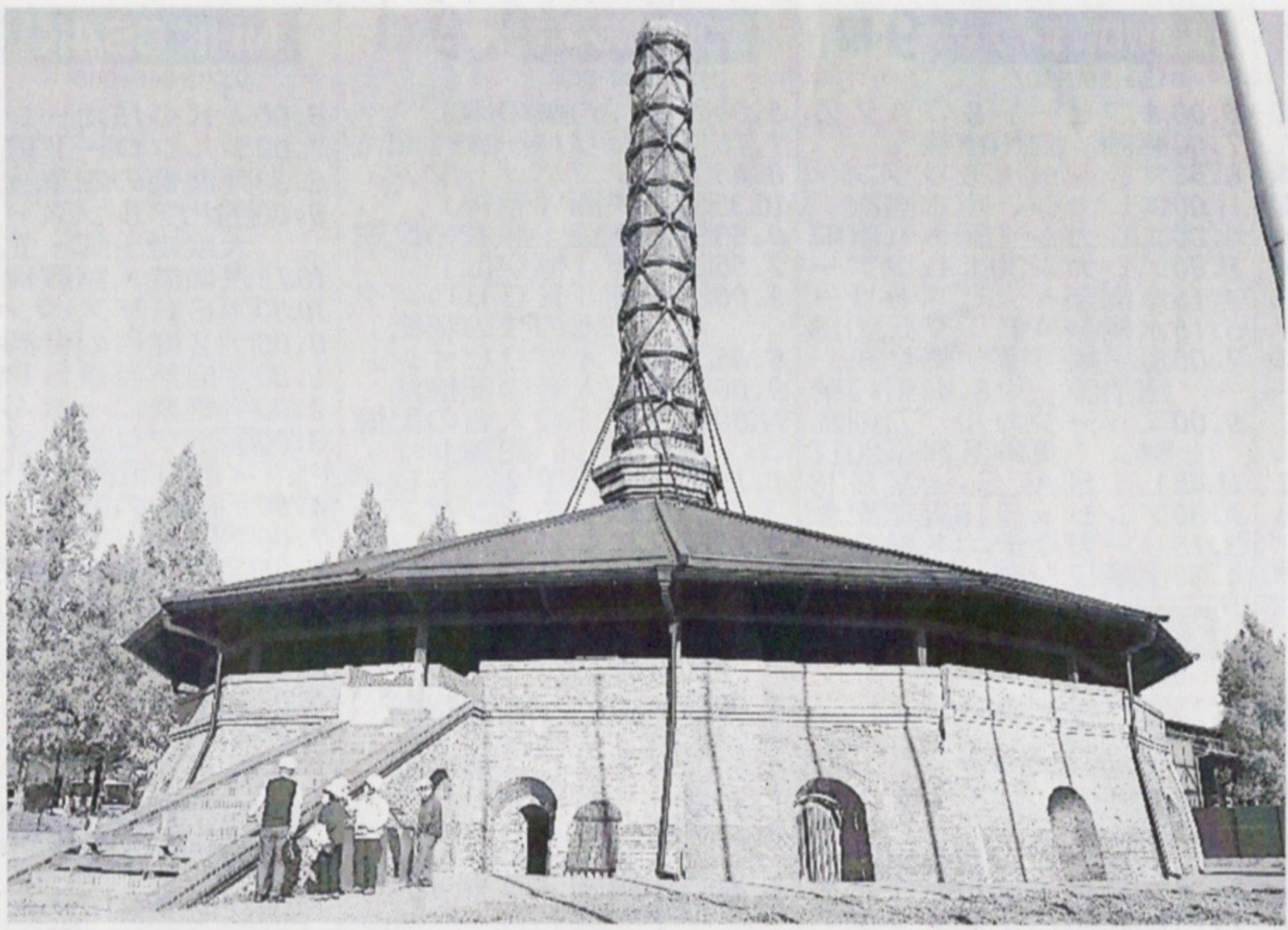


煉瓦窯の中。ガイドの案内で見学できる

細な美しさが印象に残る。

約30分、建物の構造やれんがの製造過程の説明を受けた。ガイド役の町職員、西巻聡志さん(32)は「ホフマン式の窯は全国に4カ所残るが、原型をほぼとどめるのはここだけ。日本の近代化を支えた煉瓦窯は町の誇りです」と話す。

煉瓦窯は昨年、渡良瀬遊



月3日は見学できない。
煉瓦窯冬フェスタ 12月8日午前10時～午後8時。イルミネーションの点灯は2月17日までの午後5時半～8時。模擬店やミニコンサート、昭和の車を集めた「クラシックカーイベント」などがある。

野木町煉瓦窯 野木町野木3324の1。午前9時～午後5時。見学料は高校生以上100円、中学生以下は無料。見学者を対象に無料ガイドツアーを1日7回実施しており、近くの「野木ホフマン館」(0280・33・6667)で申し込む。原則として月曜と、12月29日～1

水地の谷中湖とセットで、NPO法人地域活性化支援センター(静岡市)によって「恋人の聖地」に認定された。貯水池である谷中湖は、その形にちなんで「ハート池」とも呼ばれる。煉瓦窯の堅牢なたたずまいと、谷中湖の形が相まって「永遠の愛」を連想させるというわけだ。

煉瓦窯や谷中湖周辺では自転車借りられる。煉瓦窯から谷中湖までは自転車約20分。谷中湖の周りには1時間半～2時間のサイクリングコースがある。

(池田拓哉)

国の重要文化財にも指定されている
野木町煉瓦窯 野木町野木